



株式会社創コンサルティング
代表取締役

海野みづえ

本年は、富士重工業の東京事業所での開発関係の取り組みと（販売）特約店での環境と顧客対応について伺いました。今後とも海外を含めた富士重工業の社員全員がCSRの意識を持ち続けていくよう、継続して取り組んでください。

CSR活動の全体

2009年にCSR方針を改定しましたので、今後のCSR活動はこれに基づき具体的なCSRボランタリープランを策定し実施の方向を明確化していくことにあります。現在CSR活動全体について、レビューを行っているところと伺っていますので、これを着実に全社でCSRの重点課題を共有していくようにしてください。

また体制について、これまでのCSR・環境委員会の見直しを行うということです。CSRは環境課題を含み事業活動全体に広範にかかわるテーマですので、CSRを上位概念として主要な活動がここに組み入れられる体制が必要です。

重点課題を検討する際には、CSRの基本項目だけでなく戦略部分（攻め）についても考慮にいれ事業計画とリンクしたプランにすることで、社員の意識向上にもなります。例えば環境や安全性能はすでに自動車開発や設計の段階から組み込まれています。ボランタリープランには既に行っているこうした点も含んでいかれるといいでしょう。

トピック別の活動

■CSR調達

自動車業界としての共同のガイドラインの状況を踏まえ、グリーン調達からCSR調達への展開の準備段階にあります。サプライヤーへのガイドラインを提示する以上はまずは自社からということで、CSRボランタリープランの策定とその実施が急がれます。そのうえで、業界他社との協力や進捗をわきまえながら対応を進めてください。

昨今中国の工場での労使問題がクローズアップされています。富士重工業では自動車部門では対象にならないものの、産業機器部門の中国工場やそのサプライヤーがこの課題に直面しています。海外工場での課題は現地社員とのコミュニケーションにありますので、こうした状況まで踏まえたCSRに留意してください。

■特約店のCSR活動

顧客ともっとも強い接点をもつ特約店において、環境の意識と顧客対応活動に力を入れており、その成果が見えてきました。環境活動については、エコアクション21の取得をマイルストーンとして事業所内の環境推進をはかるだけでなく、PDCAサイクルを回すマネジメントの定着にもなっています。この意

識が販売員や整備員に根付けば、環境活動だけでなくコンプライアンスや顧客・地域への配慮といったCSR全般の意識を特約店の隅々まで広げるベースになるでしょう。まずは先進的な特約店からはじめ、今後は全国各地の販売会社さらには各店舗にまで展開してください。

また今年は市場が拡大している中国でのCS向上について取り上げており、意識の拡大がみられます。こうした海外の活動もCSRボランタリープランの対象に加え、今後は計画と進捗を全社のマネジメントのなかに組み込んでください。

■CSR活動の3つの柱

共通項目である「環境、交通安全、地域貢献」の3分野のうち交通安全については、具体的な展開の必要性を昨年指摘したところですが、その後も対策が十分にとられていないので、この先の課題として展開していくよう意識してください。

報告の媒体と内容

毎年記載内容だけでなく、報告の媒体と様式に工夫がされており、課題を整理するとともに読者にわかりやすく伝える考慮があります。冊子のダイジェスト版については、主要な項目をどう絞るかがポイントですが、まだその方針がはっきりはしていないようです。これもボランタリープランの策定による部分が多いので、次年度ではこれも踏まえて報告作成に努めてください。またwebでの情報開示については、報告書形式でなくHTMLでアクセスがしやすいスタイルとすることも必要でしょう。これはweb上の企業情報全体のなかで位置づけることとなりますので、トップページからのアクセスなど広報と連携したCSR情報開示についても検討してください。

プロフィール

海野 みづえ
株式会社創コンサルティング 代表取締役
<http://www.sotech.co.jp>

経営コンサルティング会社に勤務の後、1996年に創コンサルティングを設立。日本企業のグローバル経営に視点を置き、独自の分析眼で環境・CSR分野での経営のあり方を提言、企業活動の実務をサポートしている。東京大学大学院非常勤講師。著書に、「グローバルCSR調達」、2006年（共著）、「SRIと新しい企業・金融」、2007年（共著）、「企業の社会的責任 [CSR] の基本がよくわかる本」、2008年などがある。

第三者評価をいただいて

昨年に引き続き、株式会社創コンサルティングの海野みづえさまに、当社CSR・環境委員会委員長の奥原代表取締役副社長、同副委員長の高橋専務執行役員に対するトップインタビューや東京事業所・スバル販売特約店でのヒアリングを通じ、スバルの社会性および環境活動を客観的に評価していただきました。

いただいたご意見は真摯に受け止めて、CSR活動のレベルアップを図っていきます。

(1) CSR活動全般

CSRの重点課題を明確にし、CSRボランティアプランを検討・策定します。また、その重点課題を確実にマネジメントできる体制を検討し、CSR・環境委員会の見直しを行います。

(2) CSR個別テーマ

① CSR調達

産業界およびISO26000／SR(組織の社会的責任ガイドライン規格)などの状況を踏まえ、2011年度CSR調達ガイドライン策定に向け準備を進めます。

② 特約店のCSR活動

スバル販売特約店のエコアクション21は2009年度末、全

45社中20社が認証取得しました。引き続きスバル販売特約店のエコアクション21認証取得を支援します。

③ CSR活動の3つの柱

CSR活動の3つの柱「環境、交通安全、地域貢献」の3分野のうち交通安全は、「輸送機器メーカーとしての責任を強く認識して世の中の交通事故削減のために努力し、交通違反と交通事故(加害)のゼロ化に努める」という考え方のもと、安全運転教室などさまざまな活動を進めています。今後は、富士重工業として交通安全活動の報告のあり方を検討し、活動効果の拡大を図ります。

(3) CSRレポートの媒体と内容

CSRレポートはwebと冊子があります。webはフルレポートとして各事業所・製作所の取り組みも含め、当社グループのCSR活動を網羅的に掲載し、冊子はダイジェストとして当社グループのCSR活動をポイントを絞って掲載しています。冊子における掲載項目の絞り込みについてより明確化します。

webでの掲載については、アクセスしやすい方式を検討します。

環境シンボルマークについて



2005年6月に、当社はスバルグループの環境シンボルマークを設定しました。マークの中心に「葉」をデザインし、「緑の大地」と「青い空」の地球をコンセプトとし、積極的に環境保全に取り組む想いをこのマークに込めています。



表紙のデザインについて

環境にやさしいクルマづくり、クリーンエネルギーの創出など、スバルが事業活動を通じて地球環境保全に貢献している姿を、クルマ・風車・自然の写真の融合で表現しています。

～編集・発行～

富士重工業株式会社 総務部 環境推進室

お問い合わせ先 ● TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2015

制作支援 ● 日本ビジネスアート株式会社